

- 智頭町は高齢化・後継者不足による生産者および栽培面積の減少が著しく、リンドウの産地維持が大きな課題である。
- 生産部、農協、町、県の関係機関が連携し、新規栽培者受け入れ対策、栽培上の課題と対策について役割分担をして取り組んでいる。
- 一方で、気象変動による不稔・採種不足、育種法の理解不足による独自の優良系統の消失、長期の育種期間が衰退の一因である。
- 農業革新支援専門員の課題として採種量確保対策、育種理論の普及、鳥取大学と連携した遺伝様式の解明、効率的育種法の確立に取り組んだ。

### 具体的な成果

#### 1 切り花による採種法の確立

- ・室内環境(気温、光環境)の整備、病害虫対策を実施することで切り花による高温期の安定した採種が可能になった。



#### 2 在来系統および交配系統の整理

- ・交配組合せとその後代を記録、圃場マップの作成により育種の「見える化」を達成し、貴重な資料となった。

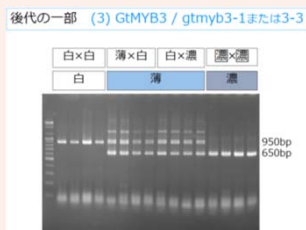
#### 3 育種理論の伝達と交配の実施

- ・交配組合せ表を元に関係者で親株を選抜し、あらゆる機会を捉えて育種理論を伝達しながら交配を実施した。
- ・育種理論は概ね理解され、親株5系統を選抜し、17組合せの種子を得た。



#### 4 育種の効率化

- ・鳥取大学との連携により、遺伝様式、花色と遺伝子との関係が明らかになり、開花前診断が可能になった。



#### 5 県内産地拡大への波及効果

- ・取り組みの成果により、苗の安定生産が可能となり、県内への苗供給が行われ、**産地拡大**のきっかけとなった。

### 普及指導員の活動

- 1 高温期の不稔対策、室内採種法の確立  
・冷房コンテハウスによる室内採種技術確立を支援した。

- 2 育種理論の普及推進

- ・生産者からの聞き取りによる在来系統の整理を実施し、系統の分析を行った。
- ・交配の考え方・理論を現場で伝達し、交配を実施することで実践した。
- ・生産者、普及指導員、農業革新支援専門員で目合わせをしながら交配親を選抜すると共に、新花色系統の検索を行った。
- ・交配組合せを明確にし、次世代の交配に生かすための助言を行った。



- 3 育種の効率化(鳥取大学との連携)

- ・遺伝様式の解明に取り組んだ。
- ・花色と遺伝子との関係について解析した。
- ・遺伝子診断による効率化、早期系統育成の可能性について検討した。

### 普及指導員だからできたこと

- ・幅広く関係機関との連携を構築できたこと。
- ・専門知識を生かし、学術的な活動にも取り組めたこと。

- ・生産者と共に活動することで取組への理解と賛同を得たこと。結果として、育種に協力的な生産者が増えた。